西日本電信電話株式会社　相談役 村尾和俊氏

ICT*を通して文化芸術振興と地域貢献

*ICT…Information and Communication Technology　コンピュータ技術を活用した情報通信技術

今年6月、NTT西日本の代表取締役社長を退任して相談役に就任した村尾和俊氏（関西経済連合会副会長）に、関西の伝統芸能への思い、最新の情報通信技術を活用した地域振興策、大阪城を核とした文化芸術の構想を伺った。

きっかけは京都

2000年9月に東京から異動し、5年間京都支店長を務めました。着任してほどなくNHK京都放送局の山本壮太局長（当時）から「せっかく京都で働くんだから、これを機会に転勤族で京都の芸術文化を勉強する会をつくろう」と誘われ、大手企業の京都支店長たち20数人で「聞風会（もんぷうかい）」という勉強会を立ち上げました。

聞風会では、京都のお寺を借りて華道や茶道、香道、座禅、京染めなどのさまざまな伝統文化を体験しました。そんなこともあって、長唄三味線の稀音家美穂一（きねやみほかず）さんに師事して三味線を習い始めました。きっかけとなったのは、私の京都着任の歓迎会を催してくださったとき、居合わせた舞妓さんに「私がその三味線を弾いたら、踊って頂けますか」と尋ねると、「よろしおすえ」といわれたからで、ちょっと変わった動機だったかもしれません。

その後3年ほどして山本さんが異動されることになり、その送別会で三味線を披露しました。皆さんにお聴かせできるような腕前ではないと固辞しましたが、山本さんから「間違って弾けば笑いをとって場も和む」と口説かれて断わり切れませんでした。そして大胆にも、茶道界や華道界の重鎮など名だたる方々の前で、稀音家美穂一師匠とともにお祝いの曲を披露させていただきました。

翌日、京都商工会議所から会頭の秘書の方が来社され、「今や京都の旦那衆でも、三味線を弾いたり小唄を歌わないのに、東京から来た人が、そうした芸事を披露してくれるのは素晴らしいことだ」とお褒めいただきました。また、日本経済新聞の交友抄に「三味線支店長」と紹介され、客先で「三味線支店長です」というと、とたんに和やかなムードになって話が進むようになりました。まさに「芸は身を助く」ということです。

ビジネスマンに必要な教養

大阪で財界活動をするようになって、京都支店長時代にさまざまな日本の伝統文化を学んでおいて本当によかったと思いました。日本のビジネスマンの多くは、自国の伝統文化について関心が薄く、外国人が日本の伝統文化に触れても、その話題について行けないのです。恥ずかしながら、私自身、京都へ来るまでは伝統文化に思いを馳せたことなどありませんでした。

弊社にも仕事一筋のあまり文化や芸術に疎い社員は少なくありません。弊社の各支店が保有する建物や絵画の中には文化財的な価値を有するものがいくつかあるのですが、維持管理費がかさむという理由でそれらを処分しようとしたり、ぞんざ

いに扱うことがありました。これでは大変なことになると思い、自分たちが引き継いだ文化や芸術を大切にするよう指示するとともに、「NTT西日本文化遺産」という制度を創設し、文化遺産と認定したものには、本社が維持管理費を出すことにしました。現在、建築物７棟、美術品14作品が指定されています。

最先端技術を社会貢献に活用

私どもはICT企業として、「Kirari!（キラリ）」という新たな伝送技術を開発し、これを文化芸術振興や社会貢献に役立てることができると考えています。Kirari!とは、極めて臨場感のある３次元映像や音響を、世界のどこへもリアルタイムで瞬時に伝送できる通信技術です。弊社は、熊本地震の被災者の方々に少しでも元気になっていただきたいという思いから、2017年３月、熊本県庁にKirari!を持ち込み、松竹株式会社と共同で「歌舞伎シアター バーチャル座」と銘打ち、米国ラスベガスで公演した歌舞伎を観ていただきました。またKirari!を使えば、神楽のような地方の伝統芸能を東京や大阪で見ることができ、スポーツ観戦やオペラ鑑賞などもあたかもその場にいるように楽しむことができます。この技術によって伝統文化に対する人々の関心を喚起し、現地へ行ってみたいという観光振興の一助にもなるでしょう。

Kirari!「歌舞伎シアター バーチャル座」（2017年3月・熊本県庁）
（写真提供:松竹株式会社、日本電信電話株式会社）

地球環境保護の取り組み

情報通信サービスを提供する弊社は大量の電力を使用しており、企業の責務として、地球環境保護にも取り組んでいます。例えば、京都の葵祭に使われるフタバアオイが自然環境の変化によって減少していることから、2011年に「葵プロジェクト」を立ち上げました。上賀茂神社（京都市）から株分けしていただいたフタバアオイを社員や家族などが里親となって育て、一般財団法人葵プロジェクトの協力を得て上賀茂神社に植栽するものです。さらに2012年には「みどりいっぱいプロジェクト」を発足し、自治体やNPOなどと連携して、植樹や水辺環境の保全・再生に取り組んでいます。

関西・大阪の活性化に向けて

私は関西・大阪活性化の方策の一つとして、MICE・IR（マイス・アイアール）*の誘致が不可欠だと考えています。日本には巨大な国際会議施設や展示会場がなく、世界から多くの人を集める大イベントはシンガポールや香港に持っていかれます。それを大阪に誘致できれば、大きな経済効果が期待できます。海外からのビジネスマンは家族連れで来日されることもありますから、MICEに加えてリゾート施設も必要です。大阪には関西国際空港があり、超大型客船が接岸できる港湾もあります。MICE・IRの候補地である夢洲から、外国の人たちに「瀬戸内海クルーズ」を楽しんでもらうのも一案です。本来の狙いは多くの人を呼び寄せる巨大な国際会議場や国際展示場ですが、そこに集まる人たちに楽しんでいただくため、カジノを含めたエンターテインメントの施設も必要です。

*MICEは、Meeting（会議）、Incentive travel（報奨旅行）、Convention（国際会議）、Exhibition（展示会）の頭文字で、企業活動などを中心とした多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントの総称。カジノを核とするIR（Integrated Resort：統合型リゾート）と組み合わせることで、ビジネスと観光の大きな経済効果が期待できる。

エディンバラ視察で思ったこと

関西経済同友会 歴史・文化振興委員会の副委員長をしていた私は、イギリスの文化振興の現状を学びに、2011年９月にスコットランドのエディンバラフェスティバルを視察しました。世界中からさまざまなアーティストを呼び寄せ、人口50万人足らずのエディンバラに、世界各国から450万人もの観光客が押し寄せる大イベントです。ここで私は、現地のアーツカウンシル（芸術文化の振興を目的に、各種芸術文化事業への助成を中心とした支援を行う独立機関）の運営手法を目の当たりにしました。文化振興の財源は行政からの助成金や企業、個人からの寄付ですが、〝政府はお金（助成金）は出しても運営には口を出さない〟、アームズ・レングス（腕の長さ分距離をおく）という経済学者・ケインズの考えが徹底されており、助成金の活かし方は、役人ではなくアーツカウンシルの民間専門家に任せられています。この考えを持ち帰り、同友会の提言がもとで創られた民間版文化支援機構が、現在の「アーツサポート関西」です。

エディンバラはエディンバラ城を中心としたスコットランドの古都です。そこでこれだけの成果を上げていることに習い、大阪でも大阪城を核として、文化芸術の振興と地域活性化のビジョンを描くことが可能だと思います。その際、Kirari!のような最先端技術も活用して、広く海外にも発信していくことが重要になるでしょう。

稀音家美穂一氏と三味線演奏を披露する村尾和俊氏（2003年7月・京都ホテルオークラにて）

NTT西日本文化遺産の「旧京都中央郵便局西陣分局」（1921年建築・国指定重要文化財）

（写真提供：西日本電信電話株式会社）

村尾和俊氏
1952年、兵庫県新温泉町生まれ。1976年京都大学法学部卒業、日本電信電話公社入社。NTT広報部報道部門長、秘書室長、京都支店長、常務取締役経営企画部長などを経て、2012年代表取締役社長、2018年６月相談役。2018年５月より関西経済連合会副会長。

西日本電信電話株式会社
本社：大阪市中央区馬場町３番15号
1999年７月１日設立。資本金3,120億円、従業員数3,950人、事業所・本社、地域事業本部（関西、東海、北陸、中国、四国、九州）、地域事業部（支店・各府県に設置）